

校名：高知大学教育学部附属特別支援学校

所在地：〒780-8072

高知県高知市曙町2-5-3

電話番号：088-844-8450

記載日：平成28年 5月20日

記載者：山崎 敏秀

記載者役職：副校長

1 本校の特色

① 特色を示す概念図



② 研究

◇ 障害特性に応じた雇用、雇用に向けた作業学習研究、卒業生の一般就労率の向上に向けた研究推進のため、平成26年より現実的で実際的な職業体験（作業学習を越えた事業化）を目指して、食品加工作業から一般の洋菓子店と同等の水準を備えた菓子工房 hocco sweets をオープン（火～金、10:00～15:00）、菓子製造と販売（喫茶店）を行っている。

③ 教育課程

◇ 体育：自分で自分の身体をコントロールする力や就労につながる身体作りのため、小学部から高等部（作業日以外）まで毎日行っている。（内容は発達段階に応じて異なっている）

◇ 宿泊学習：小学部1組から全学年各学期に1～2回宿泊学習を行っている。高等部は、作業と宿泊を組み合わせ、働いて給料をもらい生活する作業宿泊を行っている。（昼間働いて評価（自己評価と教員評価）し、給料をもらい、その給料で夕食、朝食、昼食（弁当）の材料を購入して宿泊訓練棟で自炊をする2泊3日の作業宿泊を行っている。）この他高等部は個人宿泊も行う。

◇ 現場実習：中学部1年生（集団）、2年生（グループ）での職場体験、3年生の3週間の現場実習（個別）、高等部では1年生3週間、2、3年生は3週間と4週間の現場実習を行っている。

④ 目標と評価基準

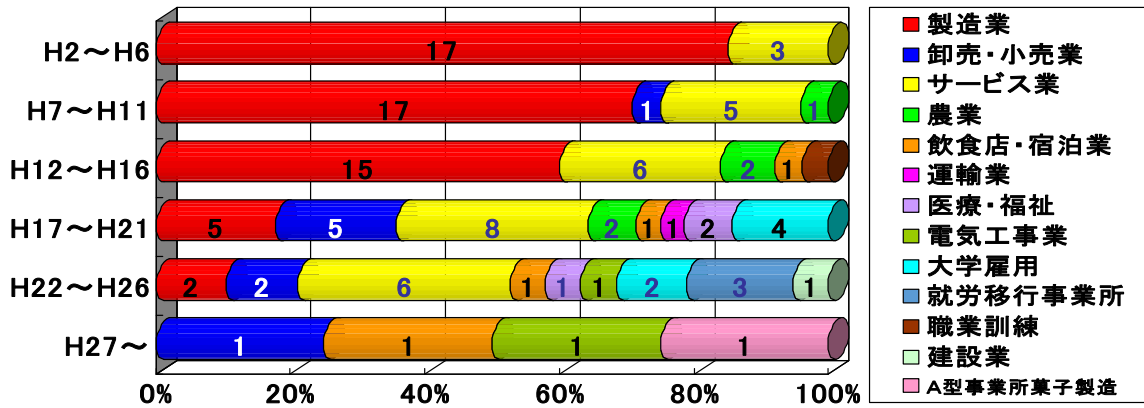
◇ 本校独自の評価基準として、日常生活面では「成長の記録」（2010.2 再編試用版作成）、作業学習や現場実習など就労に向けた学習評価には福祉事業所、一般企業、各支援機関116名からの聞き取りにより集約した「現場実習評価表」（2013.11 作成）を活用している。

◇ 年度末に新版K式発達検査を行い、教育評価と次年度の教育計画の指針としている。

2 卒業生の状況について

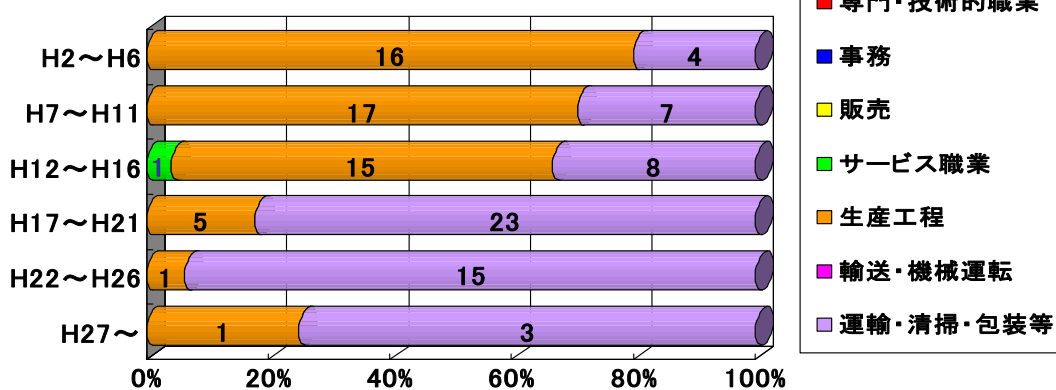
本校では、卒業生全員対象の青年学級を毎月1回開催している。その案内等お便りを発行しており、お便りを希望しない一部の卒業生以外は、ほぼ全員の把握ができています。卒業時点での就労状況は以下の通りである。

① 卒業時点での一般企業への就労先産業別分類

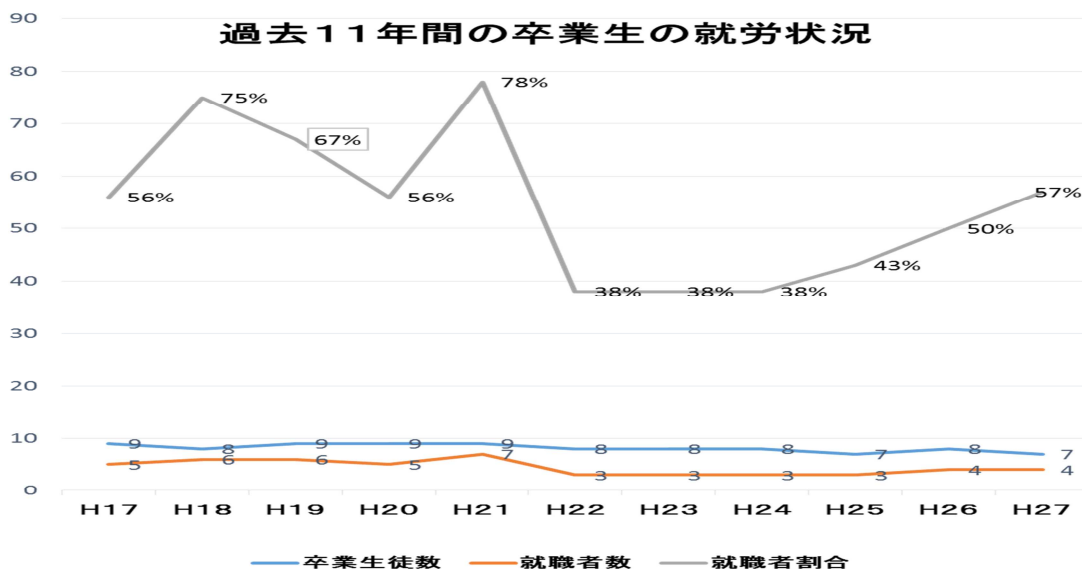


就労移行事業所からは3名中3名一般就労をしている

② 卒業時点での一般企業への就労先職業別分類



③ 卒業時点での一般企業への就労状況



④ 卒業生の就職及び離職、再就職の状況
(再就職者欄の－は再就職後の離職者数)

⑤ 福祉就労と転所の状況
(利用者の＋は一般就職からの利用者)

卒年度	卒業生数	就職者	離職者	再就職者	最終離職者	福祉就労者数	利用者	異動者(%)	その後の動向
H10	8	5	4	1	3	3	3+2	0	
H11	8	4	2	3	2	4	4+1	0	
H12	8	5	4	1-1	1	3	3+1	3	入所施設へ2、所属変更1
H13	7	2	1	3	1	4	4+1	1	転所1
H14	7	5	4	2	1	2	2+1	1	企業からB→入所へ1
H15	10	7	4	2	2	3	3+2	2	入所施設へ2
H16	9	4	4	1-1	2	5	5+1	1	入所施設へ1
H17	9	5	3	0	2	4	4+1	3	家業手伝い2、入所施設へ1
H18	8	6	1	0	1	2	2+1	1	転所1
H19	9	6	1	1	1	3	3	2	病気療養1 事業所再編で異動1名
H20	9	5	1	0	0	4	4+1	0	
H21	9	7	1	1	1	2	2+1	1	県外へ転居1
H22	8	3	1	0	0	5	5	0	
H23	8	3	0	0	0	5	5	3	一般就労へ2名 事業所内での異動1名
H24	8	3	0	0	0	5	5	1	一般就労へ1名
H25	7	3	1	0	1	4	4+1	0	
H26	8	4	0	0	0	4	4	1	事業所再編で異動1名
H27	7	4	0	13	0	3	0	0	
計	147	76	28	20	15	65	62+14	20	

本校では、本校に関わった教職員全員が「附養会」の会員になっており、2年ごとの教育研究会にあわせて附養会を開催し、近況報告等を行っている。出席できない方は手紙等で報告している。本校転出後の活躍状況については、次の通りである。なお、()内は現職人数
大学教授3名(2名)、公立特別支援学校校長8名(2名)、小学校校長2名、中学校校長1名、公立特別支援学校教頭9名(1名)、高知県特別支援教育課課長2名、指導主事7名(1名)

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

① 障害特性に応じた雇用及び雇用に向けた作業学習研究

生徒の障害特性から、より現実的で実際的な職業体験を日常的に行うことや、作業学習を事業所として運営することで卒業生の雇用を生み出す場とすることを目的に、学校内に一般の洋菓子店と同等の「菓子工房 hocco sweets」をオープンした。そこに卒業生1名を雇用して障害特性に応じた雇用及び雇用に向けた作業学習研究を進めている。本研究実践は、高知発達障害研究プロジェクト(高知大学、高知県)と共同して進めてきた。研究成果については、本校教育研究会、プロジェクトの報告書や研究紀要、高知県内及び四国内の特別支援学校校長会や教頭会等で、今後の作業学習の在り方や生徒支援法として報告した。

② 卒業生の就労率向上及び就労継続

平成26年度から文部科学省事業である「キャリア教育・就労支援等充実事業」の採択を受け、高等部卒業生の一般就労率向上に向けた取り組みを進めている。ここ数年就労率が下がっていた

が、ジョブコーチの手法を用いた支援や職場開拓など成果があり、就労率も向上している。平成27年度は新たに14事業所の職場開拓を行い、そのうち3事業所に就職できて就労率が57%となった。生徒個々への就労支援法など、この研究成果は、日本特殊教育学会での発表や本校教育研究会での紀要発表、高知県・四国内の知的障害特別支援学校校長会や教頭会で報告した。

③ 社会的自立と自己実現

時代とともに取組内容は変化しているが、開校以来「社会的自立と自己実現」を教育目標に、社会的自立を達成させるための柱に日常生活の自立と職業生活の自立において、研究実践を進めている。小学部から高等部まで系統性のある段階をおった指導、発達段階や障害特性に応じた指導・支援、小学部からの積み上げを重視している。卒業段階の就労状況を見ると、最初の高等部卒業生から平成27年度の卒業生までの卒業時点での一般就労率は57.3%である。近年下がっていた一般企業への就労率も②の取り組みにより改善しており、福祉就労も含めた希望先への就労率は100%となっている。

④ 大学との連携及び公立学校への展開

①②③に関しては、大学との連携、大学からの支援もあって成果が上がっている。今後は、作業学習の事業化、就労率向上に向けた支援法、ジョブコーチ（資格は持っていないがジョブコーチの手法を用いた支援を行う本校独自に一般採用）や就職支援コーディネーター、進路担当の役割分担など、より研究を進め、それぞれの役割分担等を整理して、県内特別支援学校だけでなく、高等学校等の発達障害のある生徒の就労支援にも還元したい。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

<時代に即した教育研究・実践の推進拠点校>

学習指導要領に「自立と社会参加に向けた職業教育の充実」があり、そのポイントとして「本人や保護者の一般就労への意識改革」「産業界のニーズに応じた教育の改善」「学校・企業・労働機関が協力した職場開拓」が示されている。本校は、こうした流れの中で、高知大学の中期目標中期計画にもある「障害特性に応じた雇用及び雇用に向けた作業学習研究」を進めてきた。

その中の一つに、既存の作業施設を活用した事業所化への取り組みがあり、本校では、菓子工房 hocco sweets の運営や印刷作業の事業化に向けた取組、木工作業と地域産業との協同した製造、印刷作業と軽作業のコラボした作業内容をB型事業所へ提供等を行っている。その成果は、各公立特別支援学校にある既存の作業施設の活用法や卒業生の雇用に向けた取組として情報発信を進めている。また、就労率の向上や就労継続に関する研究実践もこの流れの中で取り組んでいる。研究成果は、高知県の知的障害教育の充実発展、就労率の向上に向けて公表している。

小中学部では、学級での学習の他、障害特性や発達段階に応じたグループ編成での指導、ワークシステムを用いた個別指導も行っている。地域の小中学校の校内研究会、幼稚園や保育所の研修会、事例研究会の講師依頼も多く、研究実践の中で得られた、障害特性や個々の発達段階に応じた指導法等は、こうした会でも地域に還元している。

<専門性の向上>

交流人事で転入された教員の専門性の向上、研究推進等、地域に帰った時の地域の知的障害教育の拠点として活躍する人材の育成を担っている。

附属学校の存在意義、本校の存在意義について

国の動向に即対応できるのは附属学校であり、情勢に応じた研究実践に取り組むことで地域に発信する拠点校として必要不可欠である。